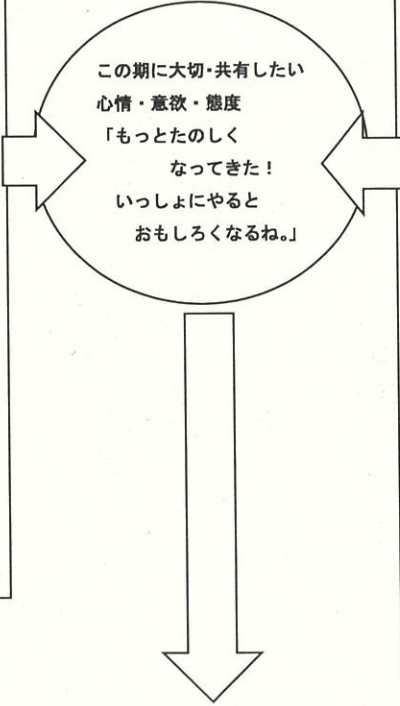


最近の子どもたちの姿 ()は幼児期の終わりに育ってほしい10の姿

- ひとりひとりが園生活を楽しみに登園している。身のまわりの身支度はだいたい子ども達は自分でできる。朝の会で、歌をうたったり、教師の話の聞いたりなど落ち着いて活動する姿がみられる。一日の流れに見通しをもち、遊びや活動を楽しみにしている。友達への興味関心が広がってきている。(健、自立)
- 園庭では、数人の友達と一緒に遊ぶ姿がみられる。木のおうち、階段、砂場、築山、泥んこ場などで、自分の思いや願いをもち、やりたい遊びにむかっている。様々なコーナーで木の実や草花等を使い、ケーキ屋さん、ごちそう作りなどを行っている。泥んこ場では、泥んこ場で、泥んこの感触を楽しみながら“団子”“水あめ”など作って遊んでいる。土、砂、泥の性質の違いに気付きをもち、泥で作った“コロッケ”に砂場の砂を衣にみだててまぶしたり、泥団子を水に溶かし「チョコになった。」と驚いたりして、感触を楽しみながら遊んでいる。また、チケットを作ったり、ドングリのお金を考えたりし、言葉のやり取りを楽しんでいる。(協、思、言、表)
- 秋の自然物(ドングリ・イヌマキの実・ムラサキシキブ・マユミの実・スズカケの葉っぱなど)に興味をもち、集めたり、つぶしたりしてごちそう作りを活かしながら遊んでいる。自然物の色や形などから、イメージを膨らませ、「団子を葉っぱで包むと壊れないよ。」「レモン味にはイチヨウの葉っぱがいい。」などと、自然物の特徴を捉え、考えたり工夫したりしている。(健、自然)
- 固定遊具(鉄棒、雲梯)に挑戦し、身体を動かすことを楽しんでいる。足掛け回りをしたり、自分なりに技を考えたりしている。また、その姿を教師に「みてみて。」と言って見せたり、その過程を価値付けられたりする中で、出来た嬉しさや心地良さを感じ、さらに自信をもって遊びに向かう姿がみられる。また、年長児の縄跳びに触発され、「前回りを〇回跳ぶ。」と目標を設定し、挑戦している子どももいる。(健、自立)
- 園庭に生息している秋の虫(コオロギ、バッタ)に興味をもち、見つけたり、飼育ケースに入れて観察したりしている。初めは虫を見つけないことや、「これ何?」と興味をもつ姿だったが、徐々に、「捕まえてい。」「お家をつくる。」「虫さんのごはん何かな。」といったように虫へのかかわり方が変化している。(自然)
- 自分の作りたいものをイメージして作ること(剣つくり、ステッキ、身に付ける飾り、乗り物など)を楽しんでいる。繰り返し遊ぶ中で、指先を動かして細い剣が作れるようになったり、工夫して作ったりなど自分で作ろうとする姿が多くみられる。友達と同じものを作ったり、身に付けたりすることを喜んでいる。また、段ボールをつなげてお店を作ったり、自然物(ドングリ・松ぼっくりなど)を使ってごちそう作りをしたりして遊ぶ姿がみられる。(協、思、言、表)
- 遊びを通して、友達とのかかわりに変化や広がりが見られる。遊びの随所で、「友達の〇〇やってみないな。」「友達のやり方をやってみよう。」「同じにしよう。」「友達と一緒に楽しいな。」と言いながら遊ぶ姿があり、友達に気持ちが向いている子どもが多くみられる。
学級全体の場では、自分の考えを言葉で話して伝えたり、友達の話を聞いたりすることができている。友達とのいざこざの場面では、自分の気持ちを我慢したり、黙り込んだり、自分で考える前にすぐに教師に言いに来たりなどの姿が多い。(協、道、言)



期の生活のねらい

- 身近な季節の自然物やいろいろな材料に興味をもち取り入れて遊ぶとする。
- 自分の遊びに思いや願いをもち、遊びをおもしろくするために考えを試したり工夫をしたりしながら遊びを続けていこうとする。
- 友達の遊びに興味をもち、思いや願いを出し合ったり共有したりして遊ぶ。
- 遊びや生活の中で、自分の話をしたり、友達の話を聞いたりなど、見たことや感じたことを様々な方法で表現することを楽しむ。

期の期待する姿・教師の願い

- 「もったのしくなってきた!」の姿
 - ・自分のみつけた遊びに向かっている中、一人一人が環境に自分らしくかかわりながら、自分なりの目的や願いをもち、遊びや自分の考えなどの面白さを見いだしていく姿。
 - ・自分なりの気付きや遊びの経験をもとに、自然物や生き物、様々なものに対して興味を広げ、さらに工夫したり発想したりして遊びを続けていこうとする姿。
- 「いっしょにやるとおもしろくなるね。」の姿
 - ・みつけた遊びを通して感じたことや気付いたことが積み重なり、多様な関わり方を楽しむようになる中で、友達の考えに触れ自分の遊びが深まったり、友達と新たな遊び方を発見したり、自分の力を発揮したりする姿。
 - ・自分の遊びや思いを話したり、友達の遊びや思いを知ったりしながら、共感してもらって嬉しさを味わい、自分の遊びや友達の遊びを大事にする姿。

この時期に大切にしたいのは、自分のみつけた遊びに積極的に向かっていく中で、これまでの遊びで感じ取ったり気付いたりした経験を、さらにじっくり考えたり試したり、工夫したりしていく姿である。また、自分らしさを発揮しながら友達の遊びを気にかけて、興味関心を広げる中で、自分の遊びを知らせたり、自分と異なる遊びや遊びの中の工夫を知ったりすることを通して、さらに遊びが多様なものとなってほしい。「〇〇くんみたいにしてみたい。」「〇〇ちゃんと一緒だから出来た。」などと、ことり組の友達と遊びや思いが繋がったり、目的をもったりすることで、一人では味わえない遊びの面白さや新たな友達とのかかわりが広がり、友達との生活を「楽しいな」と感じる姿を期待する。

環境構成と教師の援助

- ・基本的な生活習慣については、生活の中で必要であることがわかり、一日の見通しをもちながら友達と一緒に過ごし、自分で考えて準備や片付け等出来るような言葉をかけていく。
- ・みつけた遊びをする中で、自然物や身近な素材(紙、箱、廃材など)から、思いや願いをもつ姿を受けとめ、一人一人の遊びやこれまでの経験に応じて、新たな道具を準備したり、今までの経験を振り返ったり新たな面白さを見いだされるような言葉をかけていく。
- ・一人一人が遊びの中で、気付きをもつ姿、今までの遊びを活かして工夫したりする姿や友達のしていることに興味をもちかかわろうとする姿を丁寧に捉える。子ども達が、考えたことに対して問いかけたり、気付きや工夫に共感する。さらに遊びが深まるような子どもの発想を引き出し、一緒に考えながら継続して遊びを楽しめるように援助する。遊びの中のその子なりの発想や工夫が重なっていくことで、子ども達の遊びが豊かになると捉え、遊びへの思い、願いを探っていく。
- ・自然物を使ったごっこ遊びでは、特徴に気付きをもちたり、性質を理解して遊び方や取り入れ方を工夫したりしている姿を積み重ねていけるよう、その子なりの表現や感じ方に共感し、さらなる工夫や発想を価値付けていく。
- ・友達のしている遊びに興味をもつ姿を、友達とのかかわりの広がりとして捉えて、友達との楽しい経験が広がっていくように、学級みんなでのお話タイムの時間をつくる。お話タイムでは、みつけた遊びと学級での活動が連動し遊びが深まっていくように、園庭マップを使い、子ども達の遊びや思いを可視化し、遊びの面白さや願いなどを認め合えるようにする。
- ・遊びの中で、友達とのいざこざがみられた時は、それぞれの思いをしっかりと聞き、思いに共感したり、どうしたらよいかを一緒に考えたりする。時には、思いがぶつかったり、気持ちが違ったりするような姿を自分の思いを表現できる成長の機会と捉え、様子を見守ることも大切にしていける。
- ・主体的に遊ぶ中で、興味をもった遊びが継続する姿を大切にしていける。作った物の置き場、個人マークをつける、遊びの場を残す、写真の掲示などの環境を再構成して遊びを支えていく。
- ・読み聞かせの本や絵本コーナーの本、図鑑など子どものイメージに合ったものを選び、興味関心を広げられるようにする。

・木の実や落ち葉など色や形など感じたことや気づき、驚きに共感する。また、自然物の匂い、感触、美しさなどにも興味をもてるように言葉をかける。

○子どもの願いや目的を丁寧に捉え、ひとりひとりの遊びの面白さを探る。子どもが考えたことに対して問いかけたり気づきや工夫に共感したり、さらに遊びが深まるよう子どもの発想を引き出し、一緒に考え継続して遊びを楽しむように援助する。

☆興味を探りながらそれぞれのイメージや工夫を見守り、気づきや発想、工夫などその過程を価値付けていく。

○⇒遊びが深まりそうなきっかけを見取り、発想やイメージなどの気づきを引き出し、さらに遊びの面白さに気づいていけるようにする。

・年長児の遊びを教師と一緒にみたり、年長児の側で遊んだりしながら、遊びの面白さを感じる姿に共感して、いっしょに興味をもつタイミングを見守り、必要に応じて真似してみたり、試してみたいと思えるきっかけになる言葉をかけたり、思いを繋げたりする。

□自然物を集めた後は、分類できる入れ物を用意しておき、色や大きさ、形の違いに関心をもてるようにしたり、図鑑で調べたりできるようにする。

・土、砂、泥の感触や面白さを共有し、子どもの感じたことや気づき、驚きに共感する。

☆発想や工夫が見られる時は「どうしてそうしたの?」「いい考えたね!」と意味付けしながら共感する。

□☆⇒生き物に直接触れ、感触を味わいより身近に感じることができるよう、あえて虫捕り網は出さず、手で捕まえるようにする。また、捕まえ方や餌、家について教師と一緒に考えたり、子どもが思いついた方法を試したりできるようにする。

⇒どんなやり方や登り方ができるのか問いかけて、子ども自身が考えたり自分なりの方法を見つけたりしながら遊べるようにする。また、どこまでできるようになりたいのか、その子のあてを引き出し、一緒にできるようにするまで数えたり、ゴールの場所に目印を貼ったりして取り組めるようにする。

□子どもの興味関心を見ながら、縄、フープ、ボール等がすぐ出せるように準備しておく。

☆やってみようことに取り組もうとする姿や繰り返し遊ぶ姿をしっかりと褒める。

⇒視覚教材を使ったり、「次に○○するから片付けようね」など活動に見通しをもてるような言葉をかけたりして自分から次の活動に向かえるようにする。

☆自分のことが自分でできた時には十分に褒め、自信や意欲をもたせる。

環境

秋から冬に向けて、季節を感じる自然体験

○秋から冬の自然に興味や関心を深める。

- ・戸外で空の高さや空気の変化に気付く。
- ・庭園の木々の葉の変化に気付いたり、様々な木の実や枯葉を集めたりすることを楽しむ。
- ・前期・後期課程の庭を散策して、園内にはない自然を見つけたり触れたりする。

栽培活動

○栽培活動を通して、変化に気付いたり、生長を感じたりすることを楽しみにする。

- ・朝顔などの枯れた花から種を採取する。
- ・サツマイモの大きさや色を比べたり、掘った芋を数えたりして収穫を喜ぶ。
- また、ツルを遊びに取り入れたり、焼き芋パーティーをしたりする。
- ・花の苗を植え、水やりや観察しながら生長を楽しみにする。

身近な小動物と触れ合う

○身近な小動物に親しみをもつ。

- ・生き物の捕まえ方を工夫したり、飼育する方法を考えたり、図鑑で調べながら大切にふれあう。
- ・捕まえた生き物の餌や棲家を考えたり、作ったりする。
- ・園で飼育しているウサギに餌をあげたり、優しくふれたりして可愛がる。

身体を動かす遊び・ルールのある遊び

○いろいろな体を動かす遊びを楽しむ。

○道具の使い方やルールがわかり安全に遊ぶ。

- ・木登りやジャングルジム、雲梯等の道具を自分なりの登り方、渡り方で挑戦する。
- ・何回挑戦したか、何回できたかを数える。
- ・ボールを投げてバスケットゴールに入れたり、蹴ったりする。
- ・築山に手をつかず上り下りをしたり、ダンボールで滑ったりする。
- ・ぐちゃぐちゃとまれや綱渡り、大縄跳び等の綱遊びをする。
- ・友達や年長児の挑戦する姿を見て、やってみようとする。
- ・簡単なルールのある鬼ごっこなどを楽しむ。

身の回りのことや生活に必要なことを自分で取り組む

○当番活動を楽しみにし、積極的に取り組もうとする。

○保育室や身の回りをきれいにし、気持ち良さを味わう。

- ・当番の仕事や自分たちで考えて決める。
- ・グループの友達と一緒に当番活動を順番に行っていく。
- ・身の回りの始末や片づけなど「なぜ行おうか」を考えその良さや必要性を感じながら取り組む。
- ・形や同じ種類の表示を見たり、分類や組み合わせを考えたりしながら使ったものを片付ける。

身近な自然に興味をもち、取り入れる遊び、ごっこ遊び

○友達と一緒に同じ場所や道具を使ってイメージをすることを楽しみながらかかわりをもつ。

○秋の自然物を見たり、触れたりしながら遊びを楽しむ。

○自分の感じたこと、やりたいことを素直に表現する。

- ・ドングリやメタセコイヤ、セシランの実やスズカケの葉など、色の変化などに気付きながら興味をもって集めたり、遊びに取り入れたりする。
- ・泥んこ場や砂場で、イメージをもちながら泥だんごやチョコなどを作る。
- 土の質の違いに気づき特徴を活かして遊ぶ。
- ・自分が作りたいものに合わせて使う土を選んだり、柔らかさを加減したりするなど、経験を活かして工夫する。
- ・気に入った場所でイメージを広げ、ごちそう作りやごっこ遊びを楽しむ
- ・種でドングリやセシランの実などを転がし遊ぶ。
- ・自然物や土、砂で作ったものをこまごま見立てたり、カップや毛糸などの様々な素材で作ったりしたものをごっこ遊びの中に取り入れる。
- ・木のおうちやテラスなどのお気に入りの場所を拠点にして遊んだり、段ボールや積み木などを組み合わせてお家を作ったりするなど、友達と同じ場所で遊ぶ。
- ・ごっこ遊びでは役になりきり、友達や教師と言葉のやりとりを楽しむ。
- ・友達にイメージや思いを伝え、一緒に場や必要なものを考えながら遊ぶ。

絵本の世界を楽しもう

○絵本や紙芝居を見たり、聴いたりして、自分なりのイメージを広げて楽しむ。

- ・絵本の読み聞かせを楽しみにし、自分なりにイメージをしたり、言葉の面白さを感じたりする。
- ・絵本を借りることを楽しみにし、お家の人に読んでもらったり、自分で見たりする。

子どもまつり

○友達と一緒に工夫して作ったり、いろいろな表現遊びを楽しんだりして子どもまつりを楽しむ。

- ・いろいろな素材に触れて自分なりの発想を出し、作ったり描いたりする遊びをする。
- ・友達や保護者と一緒にかかわりながら子どもまつりの遊びや、表現遊びを楽しんだりする。

いろいろな素材を使って作ったり、描いたりする遊び

○段ボールをつなげたり、組み立てたり見立てて遊ぶ。

○空き箱やカップ、広告紙、毛糸などのいろいろな素材を使ってイメージしたものを作って遊ぶ。

○道具の使い方を知り、大切に使いながら遊ぶ。

- ・イメージを膨らませて、段ボールや空き箱に絵を描いたり、飾りを貼ったり、つなげたりして乗り物や家などを作る。また、作ったもので遊ぶ。
- ・いろいろな素材を使って、ごちそうやアクセサリなど作って遊ぶ。
- ・道具の使い方を知り、大切にしたり、友達と一緒に使ったりして遊ぶ。

歌ったり踊ったりなどの身体表現遊び・音楽会で歌う

○友達と一緒に歌ったり、自分なりの動きでのびのびと表現したりすることを楽しむ。

- ・友達と一緒に声を合わせる気持ち良さを味わう。
- ・リズムに合わせて身体を動かす楽しさを感じる。
- ・友達と一緒に音楽会に参加することを楽しみにする。
- ・前期課程一、二年生の歌や演奏を聴き、憧れの気持ちをもつ。

人間関係

異年齢のかかわりを楽しみながらふれあう

○年長のしていることに興味をもちながらかかわりを楽しむ。

- ・年長のしている遊びに入れてもらいながら遊び方を教えてもらったり、真似をしたりしながら遊びをすすめる。
- また、親しみの気持ちを深める。

木音の部屋で遊ぶ

○木の感触、ぬくもり、匂い、音などを感じながらじっくり遊ぶ。

○友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさを味わう。

- ・友達と一緒にイメージを広げて遊ぶ。

ALTとのふれあい 秋の合同集会

○ショー先生とふれあい、楽しみながら外国の文化や外国語にふれる。

- 前期生、後期生とふれあい、親しみをもったり、集会の雰囲気を楽しんだりする。
- ・外国語にふれながら、言葉のやり取りやゲームを楽しむ。
- ・前期生、後期生と一緒に幼稚園で遊ぶ。

おはなしタイム (聞いてほしいな)

○友達との話し合いの場で、遊びの振り返りや楽しかったこと、気付いたことを伝える。

- ・自分の伝えたいことを言葉で話したり、友達の話聞いていろいろな思いや考えに気付いたりする。

言葉

表現

「もったのしくなってきた! いっしょにやるとおもしろくなるね。」

☆友達とイメージを共有したり、遊び方を考えたり、やりとりする姿を価値付け、友達のかかわりを支えていく。

・子ども達の興味や動きをよく見て、気の合いそうな子と同じ遊びの場に誘ったり、友達の様子を伝えたりしてかかわりの仲立ちをする。

・自分の思いをうまく出せない子どもの様子を見守り、教師が内面を探り必要に応じて代弁したり、言い方ややり方がわからない場合はどうしたらいいか一緒に考え、知らせたりする。

・発見や気づきなどの経験を通して、面白いことや嬉しいことがあった時の子どもの素直な表現をしっかり受けとめて、共感する。

⇒遊びの中で思いが異なり、トラブルになるときは、様子を見守りながら教師が間に入って互いの思いを丁寧に聞き出し、わかりやすく伝えることで、友達には自分と違う思いがあるということに気付けるようにする。

⇒話し合いの場では、友達が話していることに気がつき、耳を傾ける事が出来るように「〇〇ちゃんがお話しているよ」など橋渡しをする。相手の顔を見て話すと伝わりやすいということを知らせる。

□季節や子ども達の遊びにあった絵本を読み聞かせしたり、自由に見たり出来るようにする。

お話の世界や言葉への興味を広げながら、絵本を楽しめるようにする。

□段ボールや空き箱、カップや毛糸などいろいろな形、大きさや長さのものを用意し、好きなものを選んで使えるようにしておく。

□その都度道具の使い方、大切に使うことを伝えていく。

○☆その子なりの考えや発想で作ったり、見立てたりしている姿を捉え、「いい考えたね。」など具体的な言葉で褒めて価値付ける。

□作ったもので繰り返し遊べるように、置いておく場所を確保したり、壊れても作り直せるように用具を揃えたりしておく。

⇒イメージしたものがうまく形にならない時や、どのように作ろうかじっくり考え、困難さに出会う場面では、どうすればいいかを教師と一緒に考えたり、子ども自身が発想を広げて解決することができるような問いかけをしたりしながら支え、その過程で子どもの発想する力やあきらめずに取り組もうとする経験を大切に。

・声を合わせて歌う気持ち良さや楽しさを感じられるようにする。

・音楽会に参加することを楽しみに出来るよう、一人ひとりが楽しさを感じ、自信をもって表現出来るよう支える。

	探究のプロセス	①めあて（思いや願いをもつ）	②やってみる（体験や活動）	③考える・試す・工夫する	④満足感を味わう・表現する
ドングリ転がしなど （自然に触れ合う遊び）	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物に興味関心をもつ。 園庭のいろいろな場所、自然物を見つけたり集めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然物を並べたり、雨樋を使って、転がしたりしてみる。 遊ぶ場所や雨樋の長さ、高さを変えながら転がしてみる。 色々な木の実の感触、大きさ、形などを感じながら使ってみる。 遊びながら、友達とイメージを共有し、遊びの場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨樋を転がる自然物の動きに面白さを感じる。 雨樋の組み立て方や転がし方、コースなどを考える。 自分なりのイメージをもち、その思いを実現するために工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕掛けを作ったり、大きさ、長さ、角度などを考えたりして繰り返し遊ぶ。 友達と考えを出し合い、イメージを共有しながら考える。 お客さんが楽しめるような工夫を考える。 	
ごちそう作り・レストランごっこなど （自然物を取り入れる遊びや「こ」遊び）	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物に触れ、感触、形、大きさ、色、匂いなどを感じたり、気付いたりする。 自分の作ったものを大切に使う。 友達と同じ物をもったり、同じことをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの経験を思い出しながら自分なりにやってみる。 友達のしている面白い遊びに関心をもち、楽しんでいる姿に刺激をうけて一緒にやってみようとする。 遊びながら、ごちそうのイメージをもち、見立てて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 願いをもってごちそうを作り、その思いを実現するために、どうしたらよいか考えたり工夫したりする。 お家ごっこやお店屋さんごっこをする中で、役になりきったりイメージを広げて遊びの場を工夫したりする。 年長児の遊びをみて、同じようにやってみたいと思う気持ちをもちながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が考えや思いを出し、イメージを共有し遊びを進める。 同じ場で遊ぶ友達と発想を出し合いながら遊ぶ。 友達や年長児の遊びに触発されながら、さらに工夫して遊ぶ。 おまつりの雰囲気の中で、友達やお家の人と一緒に、役になりきり、やりとりを楽しむ。 	
虫探し（バッタ・コオロギなど） （身近な生き物と触れ合う遊び）	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物に興味をもつ。 園庭のどこに何がいるのかを知る。（テントウムシの村、バッタ村、田んぼ） 友達や年長児が捕まえた生き物を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の動きをみて捕まえ方や力加減を考えて捕まえる。 年長児と一緒に探したり捕まえたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年長児に飼い方やエサなどを教えてもらいながら、愛着をもって飼う方考える。 生き物の生態に興味をもち、調べたり、絵に描いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の特徴を考えながら、いろいろな材料で表現する。 これまでの体験を活かして虫探しゲームや虫クイズをして遊ぶ。 	
学級で 「お話タイム」		～ことりのはっぴー地図～ ・自分の思いや願いを話す。 ・友達の思いを知る。	～ことりのはっぴー地図～ ・自分の遊びへの思いや経験からの 気づきや発想を話す。 ・友達の遊びを知り、やってみようとする。	・遊びの工夫を話す。 ・友達の遊びを知り、 取り入れようとする。	

8:35 登園
・登園して子ども達を笑顔で迎え、自分から身支度や準備をする姿を褒め、気持ちよく一日がスタート出来るよう言葉をかける。

9:05 げんきこタイム
・体幹を整える体操 ・なかよしベアダンス

9:30 見つけた遊び

10:30 片付け

11:00 学級で共有する活動

11:30 弁当・歯磨き

12:30 降園準備

13:00 「もったのしくなってきた！
いっしょにやるとおもしろくなるね。」

13:40 片付け

14:00 学級で共有する活動（お話タイム）

14:30 降園準備
・自分のことは自分でしようとする姿を励まし、認め自分の力で身支度する姿を褒めていく。
・「明日もいっぱい遊びたいな。」という気持ちをもって、降園できるように言葉をかける。

予想される幼児の活動

□環境構成 教師の援助（・共感する、見守る ○意味付け ☆価値付け ⇒力付け）

④身近な自然に興味をもち、自然物を取り入れる遊びやごっこ遊び（団子作り、クッキー、コロッコや水あめ作り、ごちそう作り）
・気に入った場所でイメージを広げ、ごちそう作りをしたり、ごっこ遊びをしたりする。
・ドングリやメタセコイヤ、センダンの実やスズカケの葉など、色の変化に気付きながら興味をもって集めたり、遊びに取り入れられる。
・自分が作りたいものに合わせて使う土を選んだり、柔らかさを加減したりするなど、経験を活かして工夫する。
・泥んこ場や砂場で、イメージをふくらませながら団子やクッキーなどを作る。土の質の違いに気付き特徴を活かして遊ぶ。
・役になりきって、友達や教師と言葉のやりとりを楽しむ。
・友達や年長児のしている遊びに興味をもち、場を歩き来しながらかかわりを楽しむ。
・友達や年長児の作っている泥だんごなどに興味をもち、真似して作ってみる。
・友達と思いを伝え合いながら、場を工夫したり必要なものと考えたりして楽しむ。
・遊びの中で感じたことや気付いたことを友達や教師に伝えようとする。

⑤秋の自然に触れ合う遊び（木の実集め、ドングリ転がし、アクセサリー作り）
・ドングリやメタセコイヤ、センダンの実、イヌマキの実、ザクロ、スズカケの葉など、色の変化などに気付きながら興味をもって集める。
・雨樋を繋げてドングリを転がし、転がる早さや音を楽しんだり、コースを考えたりして遊ぶ。
・ドングリやノグルミを使ってアクセサリー作りをして遊ぶ。

⑥身体を動かす遊び（雲梯、鉄棒、木登り、登り棒、縄跳び）
・雲梯がどこまでできるかのめあてをもって挑戦したり、鉄棒で技が出来るようになることを目指したりして、繰り返し取り組む。
・木音の森でパラソルをとりながら進んだり、高いところまで登ったりして挑戦する。
・友達がしている姿を見て、自分なりの方法でやってみようとする。
・今出来ることに自信をもち、さらに出来るようになりたい気持ちをもって繰り返し取り組む。

⑦身近な生き物と触れ合う遊び（テントウムシの村やバッタ村で虫を捕まえる、生き物コーナーで観察したり飼育したりする）
・捕まえ方を考え、自分で工夫して捕まえたり、動きに興味をもち、気づいたことや不思議に思ったことを友達や教師に言葉で伝えたりする。
・生き物に愛着をもって触れたり、飼いや方を考えたりする。
・年長児と一緒に虫を捕まえたり、飼いや方、扱い方を教えてもらったりする。

⑧イメージを膨らませて表現する遊び（作ったり描いたりする遊び、ごっこ遊び）
・自然物（ドングリ、メタセコイヤなど）をごちそうや飲み物に見立て、ごっこ遊びに取り入れて遊ぶ。
・段ボールをつないでお店にしたり、乗り物など作ったりして遊ぶ。
・様々な紙（折り紙・画用紙・広告紙など）を切る、貼る、書くなど工夫して作る。
・毛糸や不織布など様々な素材を使って、ごっこ遊びに取り入れる。
・友達に考えやイメージを伝えながら、同じ場で遊んだり、友達と一緒に身近にある、いろいろな材料を使い、遊びに必要なものをイメージしたりして遊ぶ。（剣、ステッキ、アクセサリー、ほうき、乗り物など）
・遊びの中で感じたことや気付いたことを友達や教師に伝えようとする。

片付けをしよう ・遊んだ道具を自分たちで片付ける。
・明日も続きをしようという気持ちをもって、作った物を残したり場を整えたり、片付けたりできるように声をかける。また、使い終わった道具は元の場所に戻したり、汚れた場所をほうきで掃いたりして、きれいにすることを覚えられるようにする。最後までみんなと一緒に片付ける大切さを伝えていく。

お話タイム ・楽しかったことや思ったことをみんなに話したり、知らせたりする。 ・友達を楽しんでいることを知ったり興味をもったりする。
・一人ひとりの遊びの中で感じたことや思いを話し、その遊びや思いが教師や友達に伝わったり、共感してもらったりする喜びを味わえるようにする。
・一人一人の遊びへの興味をもち方や動き、姿などを担任同士で共通理解した上で捉え、思いを言葉でかけたり共感したり、見通しをもたせたりしていく。
☆自分が学級の中で大切にされていることを実感できるように、子どもの思いを大切にしたり、共感したりする姿を見せ、何でも言える温かい雰囲気や基盤としたお話タイムをしていく。☆園庭マップを使い、友達の遊びや思いを可視化し、遊びが深まったり友達とのかかわりが広がったりできるようにする。

○自分なりの目的や願いを丁寧に捉えていき、一人一人の遊びの面白さを探る。子どもが考えたことに対して問いかけたり、気付きや工夫に共感したり、さらに遊びが深まるように子どもの発想を引き出したり、一緒に考えたりしながら継続して遊びを楽しむように援助する。
☆興味を探りながらそれぞれの思いや工夫をみていき、気付きや発想、工夫などその過程を価値付けていく。
○⇒遊びが深まりそうなきっかけを見取り、発想や工夫などの気付きを引き出していき、さらに遊びの面白さに気付いていけるようにする。
・年長児の遊びと一緒に見たり一緒に遊んだりして面白さを感じる姿に共感していく。
⇒興味をもつタイミングを見守り、必要に応じて真似して試してみるきっかけになるような言葉をかけたり、思いを繋げたりしていく。
⇒□友達と思いを伝え合う姿を支え、願いが実現するように必要なものを子どもと一緒に考えたり作ったりしていく。
☆自然に興味をもち自分の遊びに取り入れて、見立てたり工夫したりしている姿に共感し、その過程を褒め価値付ける。
☆友達同士でやりとりを楽しんだり、遊びを進めたりしている場面では、互いに思いや発想を出したり、受け入れたりする姿を、褒め認めていく。
・友達と一緒に役になりきって、自分たちの世界を楽しんでいる姿を大切に、子ども達の会話に耳を傾け、感じていることに共感していく。
☆園庭マップを使いながら、子どもの思い、工夫などを聞き、書き足していき、遊びの過程や満足感を価値付けていく
□継続して遊べるよう置き場所、置き方を工夫する。（全ての遊び）
□泥んこ場ならではの、泥の感触や面白さを味わえるよう、耕しておく。
□雨天の場合は、子ども達がテラスで団子やさんごちそう作りができるように、教師も一緒に場を整えるなどして遊びたい意欲を支える。
・木の実等の自然物を見つけて、色の変化や形、音の違いなどに気付きをもち、興味をもって触れながら驚いたり心を動かしたりする姿に共感する。
☆ドングリが転がる早さや、音に興味をもったり、コースの高低差や角度などに気付きをもちたりする姿を丁寧にみていき、共感したり、遊びがうまくいかない時には力付けをしたりして遊びの面白さを感じていけるようにする。
□集めた木の実や草花は、子ども達と一緒に、並べたり、分類したりして色や数、大きさ、形の違いなど興味をもったり使ったり出来るようにする。
・年長児の遊びに触発されてやってみたり教えてもらったりする姿を大切にしていこう。
・☆興味をもって繰り返し頑張っている姿やあきらめないで楽しんでいる姿を具体的な言葉にして認める。
☆友達や年長児にやり方を教えてもらったり、助けてもらったり、励まされたりなどのかかわりを大切に、その嬉しさに共感したり次への意欲に繋げたりしていく。
□安全面に配慮しながら、具体的なやり方を示したり、身体を支えたりして安全に取り組めるようにする。
⇒生き物の捕まえ方や居場所を自分なりに考えたり、友達に聞いたりする姿を見守り、命を大切に扱えるような言葉をかける。
・生き物に触れながら子どもが気付いたり感じたりしたこと共感し、生き物の不思議さを感じられるような言葉をかける。
⇒年長児とのかかわりを通して飼いや方や捕まえ方、生き物を大切にすることを感ずる機会を捉えて繋げたりかかわり合いから学ぶ姿を価値付けたりしていく。
⇒□コーナーを整えながら、学級みんなの場所という気持ちをもって場を考え、工夫する姿を支える。
⇒遊びに必要なものを自分なりに考える姿を認めながら、作っていく上で難しい部分は教師がしたり、手伝ったりして、思いが実現できるように支える。
・友達と一緒に同じものを作ったり身につけたりして遊び、自分たちの世界を楽しんでいる姿を大切に、楽しさや自由な表現に共感する。
□画用紙、折り紙、空き箱、紙テープなど、いろいろな形、大きさのものを用意しておき、好きな物を選んで使えるようにしておく。
□集めた木の実を入れる箱や作った物を並べる場所など、子どもと一緒に考えながら、遊びに意欲をもてるような場作りをしていく。